

令和6年度 五ヶ瀬中等教育学校〔学校評価〕

1 学校経営ビジョン

「五訓」や「創設のことば」の実現に向けて

- ① 安全・安心・信頼できる学校・寮づくりを推進し、学校内外への情報発信に努める。
- ② 感動と感性の教育を基盤に、豊かな人間性と社会性を育成する。
- ③ 6年間一貫教育を活かした学校のカリキュラムや寮教育を通して、確かな学力と自主性、自立性、協調性のある生徒の育成を図る。
- ④ 生徒一人ひとりの夢や希望を実現するための6年間を見通した進路指導体制を構築する。
- ⑤ 教科の専門性を高め、「学びの創造」を目指しチャレンジする教師集団づくりを行う。

2 重点目標と主な達成手段

1 学校の保障(信頼される学校づくり)

- ① 学校・寮運営におけるリスク管理と迅速な初期対応
- ② カリキュラム・マネジメントの充実
- ③ 保護者からの意見・要望への丁寧な対応
- ④ 情報発信や志望者確保に向けた広報の充実

2 人物の保障(自主性・自立性・協調性のある生徒の育成)

- ① 命を大切にする教育の推進(心の健康)
- ② 全寮制の生活体験を通じた自己教育力の育成
- ③ 異学年集団を活用した社会性・人間性の育成
- ④ 教育相談体制の充実

3 学力の保障(確かな学力の育成)

- ① 基礎学力の定着と学力向上
- ② 思考力・表現力・判断力の育成を目指した授業実践
- ③ 主体的・協働的に学ぶ態度の育成
- ④ 個に応じた学びを高めるICT機器の汎用的活用

4 進路の保障(行くべき大学(道)に導く指導)

- ① 6年間を見通した進路指導
- ② 適性・能力に応じた進路指導
- ③ 進路を意識した探究活動の戦略的指導
- ④ 入試問題の研究と対応できる教材の工夫・開発

3 各部等の目標に対する今年度の評価

※ 4:良い 3:どちらかというの良い 2:どちらかというの悪い 1:悪い

[1] 教務部

目標と手段	事業計画	達成目標	評価	
			記	評議員
3-①	【生徒の基礎学力定着と学力向上】 ① 授業における基礎学力の定着を図るため、偏りのない年間授業実施計画を立て、十分な授業時数が確保できるよう努める。	① 曜日振替や出張等による授業措置を確実に行う体制づくりを行う。※1	4	3.5
3-① ③	② I期生を対象に学習の姿勢を身につけさせるとともに、補足的な講座を実施し、長期的なきめ細かい指導によって下位層の削減を図る。	② 評定平均4.0未満の生徒を0にする。	2	
3-① ②③	③ II・III期生対象に個に応じた学習の場を設定し、主体的に学習に取り組む生徒の育成を図る。	③ 学習特別指導を要する生徒を0にする。※2	2	
3-② ③④	【カリキュラム・マネジメントの充実】 ④ 先進的な学びの実践と、新しい評価方法の検証・フィードバックを行いながら、生徒・保護者に対して学習活動の成果と課題をより明確かつ客観的に示すことのできる評価方法の研究を行う。	④ 評価に関する成果と課題を整理し、シラバスの有効活用を促進しながら、今まで以上に指導と評価の一体化を図る。	3	
1-③ ④	⑤ 学びの森学校の教育理念に基づき、学習指導要領の趣旨を踏まえながら、6年間を見通した学びにつながるような系統的で横断的な教育課程編成を行い、指導力向上に努める。	⑤ 教育課程検討委員会、各分掌等と連携し、特色のあるカリキュラム開発・編成・発信を行う。	4	
1-② ④ 2-② 3-③ 4-①	【学び方・働き方改革】 ⑥ 授業参観週間など、教員が相互に授業参観する場を設定し、授業の工夫改善、授業改革の機会を設ける。	⑥ 思考力・判断力・表現力の育成や、ICT機器の効果的・汎用的活用を目指した授業実践の体制づくりを行う。	3	
3-② ④ 1-④ 3-③	⑦ 行事・日程を確実に計画するとともに、会議・職員研修等の工夫をしながら、生徒・職員が学びやすい、働きやすい環境作りに努める。	⑦ 行事・日程、会議・職員研修等の見直しを継続的に行い、次年度に向けての改善を行う。	3	

〔2〕生徒指導部

目標と手段	事業計画	達成目標	評価	
			自己	職員
2-② ③④	① 気持ちよいあいさつや返事、清潔な身だしなみ、時間を守るなど、基本的な生活習慣の定着を図る。	① 教師の随時指導の中で生徒の努力を認め、積極的にほめるように努める。(1日1褒) 生徒会や各種委員会で対策を検討させることで生徒の自主的な活動を推進させる。	3	3.5
1-① 2-① ②③④	② 規範意識の醸成に努め、男女交際のあり方を含めた規律ある生活習慣の確立に努める。	② 全校集会等での伝達や教員間の情報共有の下、日々の生活の中で全職員による積極的な生徒指導を実施する。	2	
1-② 2-③ ④	③ 「体験活動」を軸とした学校行事の見直しや質の向上を図り、情報の発信を積極的に行う。	③ 学校行事に積極的に参加することで企画・運営に貢献できる生徒を育成し、行事等の情報をWeb等で発信する。	3	
1-③ ④ 2-③ 4-②	④ 部活動のあり方を定期的に検討し、社会状況や生徒・職員の実態に応じて、生徒が充実した活動ができるように努める。	④ 本校の特徴を踏まえた部活動の練習や大会参加について、部顧問会、派遣委員会等で検討する。	3	
1-① 2-① ④	⑤ 各学年や寮教育部と連携して生徒情報の共有化をはかる。また定期的な教育相談委員会やケース会を実施し、本校職員とスクールカウンセラーによるきめ細やかな教育相談体制を確立する。	⑤ 「気になる生徒」の早期発見・早期指導・継続支援を行う支援体制を整えることで、問題行動・いじめを未然に防止する。	3	
2-② ③	⑥ ホームステイ・農村民泊事業等を実施し、町民との交流を深める。	⑥ 生徒にとって非常に貴重な体験であることを町民の方に理解していただくことに努め、受け入れ世帯にとっても有意義な行事にする。	4	

[3] 進路指導部

目標と手段	事業計画	達成目標	評価	
			自己	評議員
	「行くべき大学(道)・行きたい大学(道)へ」			
3-① 4-②	① 対外模試を細かく分析し、生徒の学力の実態把握に努め、面談や学力検討会を通して学力向上につなげる。	① 基礎学力（知識・理解）、実践力（思考・判断）の向上と的確なフィードバック。	2	3
4-①② ③	② 本校の教育活動を活かし、戦略的に入試への対応を図る。	② 総合型選抜・学校推薦型選抜の合格率の増加。	2	
3-①② ③ 4-②④	③ 実力テストの問題作成、難関大対策講座を通して、入試問題の研究を深め、教員の指導力向上と生徒の実力養成を図る。	③ 一般入試の合格者の増加と難関大学の合格者の増加。	2	
4-①③ ④	④ 研修等で職員に適切な進路情報を提供し、進路指導に対する全職員の共通理解を図る。	④ 6年間を見通した計画的・系統的進路指導体制の構築と全職員による進路指導。	3	
3-③	⑤ 進路講演会・キャリアガイダンスを通して望ましい「学習観」「勤労観」「職業観」の育成を図る。	⑤ 健全な職業観の醸成と学習状況やキャリア形成の変容。	3	
3-①③ 4-①	⑥ 教育コンテンツの導入による学習習慣の確立と適応学習による自学・先取り（予習）の促進を図る。	⑥ 朝活・放課後の学習の固定化、自由化と学びの自走化。	2	

〔４〕環境保健部

目標と手段	事業計画	達成目標	評価	
			自己	評議員
2－① 2－④	① 保健管理と保健教育を充実させ、心身の健康の保持増進に努める。	① 傷病の予防や早期発見・早期治療に努める。関係分掌と連携を図り、面談を充実させる。	3.5	3
2－②	② 毎日の食事指導を通じて、食事マナーの習得や基本的な生活習慣の確立に努める。食事や周囲の人々への感謝の心を育てる。	② 食事指導を通して、食事マナーの向上と残菜の量を減らす。厨房職員との交流会を通して、厨房職員への感謝の心を育てる。	2	
2－②	③ 毎日の清掃活動を通じて、美化や安全に対する意識また勤労意欲を高め奉仕の心を育てる。 日々の清掃活動を生徒と共に取り組み、校内の美化に努める。	③ 美化・奉仕委員会を活性化し、清掃状況の改善を行う。また、清掃開始時間を守る。	2	
2－① 2－②	④ 6年間を見通したL I F E（生命・性に関する指導）の授業を実施し、自尊感情を高め、自他の命を大切にできる生徒を育てる。	④ 年2回の研究授業および事後研修会の実施と日常指導に努める。	2	

[5] 図書広報部

目標と手段	事業計画	達成目標	評価	
			自己	評議員
1-③	① PTA行事の円滑な企画・運営を行う。	① 各種行事における学校と保護者の協力体制を維持する。	3	3.25
3-① ②	② 「朝の読書」「学びの森220books」「ブックトーク」などの図書活動により読解力・思考力を育成する。「朝の読書」については、教員も一緒に参加することで読書についての対話を増やす。	② 読書量を増やし、読書の質と量を向上させる。合わせて読書の質の向上を図る。	3	
3-① ②③	③ 6年間を見通した読書計画の推進、課題研究のための図書の配備、授業やHR等で利用しやすい環境の整備、教育実践に必要な情報の提供を行う。	③ 「読書センター」「学習センター」「情報センター」として機能する場となるよう整備する。	2	
2-① 3-②	④ 定期的にノーメディア啓発を行う。DX 推進チームと連携して、新設された ICT 委員会を活性化させ、ノーメディアデーを充実させる。	④ デジタル、アナログ両方に長けた人材の育成。	3	
1-④	⑤ 「学校だより」の送付、学校説明会の資料作成補助、学校の魅力発信を広報委員会、同窓会、図書委員会などを使って積極的な広報活動を行う。 30周年記念事業の準備・運営を行う。	⑤ 保護者や学校内外への定期的で確実な情報提供を図り、30 周年記念事業を充実させることで本校の魅力を発信する。	3	

[6] 研究調査部

目標と手段	事業計画	達成目標	評価	
			記	識
	テーマ:『「志」～自ら学び、自ら創造する力～』 『4D (Design×Dialogue×Digital×Data)』の日常化による学びの創造 1. 「Design×Dialogue」による学びの創造 1-② ① GF 探究の意義や価値を日常的に振り返り、6カ 3-③ 年を見通した創造的なカリキュラムになるように、G 4-③ F検討委員会と連携し、プログラムのリ・デザインを 不断に行う。 1-② ② 学校設定科目担当者会議・教科代表者会と連携 3-② し、「学際探究基礎」「学際探究」のカリキュラム開 発と振返りを日常的に行う。これらの科目を「総合 知」の理念を体現するコア科目として位置付ける。 1-② ③ 「創造的教育方法実践プログラム」を主導し、教 3-② 務部・まなかり PT との連携によって、「創造力を育 む」文理横断・教科横断型授業を年間を通じて実 施することで、新時代の学びの価値を創造する。 2-③ ④ 地域との協働による諸活動 (GIAHS アカデミー 3-③ 等) を企画・運営し、学校林や地域人材など、地域 資源を活用した体験活動・探究活動の実践と活性 化を行う。 3-④ 2. 「Digital×Data」による学びの創造 4-③ ⑤ 創 P 事業において導入した先端技術や、コンソ ーシアムとのつながりを生かして探究活動に取り 組む生徒や、学会発表・コンテスト等に参加する生 徒を増加させ、探究活動の活性化を図る。 1-④ ⑥ 探究活動の成果を生かした大学進学者と、探究 4-③ 活動への魅力を感じて入学を希望する児童を同時 に増加させるために、戦略的な指導と積極的な情 報発信を行う。 4-② ⑦ ICE モデル、Ai GROW、探究力測定を活用して、 4-③ 探究活動等の効果の検証を行い、得られたデー タをもとに「個別最適化」された学びの実現を目指 す。	① スクールポリシーにおける「身に付 けさせたい5つの力」を意識して、全 職員が探究活動の伴走にあたること ができる環境の構築 ② 「学際類型」希望者3名以上 ② 受講生徒の AiGROW 結果の6月 →3月の比較において「5つの力」が 全て5ポイント以上上昇 ③ 研究調査部を母体としてまなかり PT を運営し、文理横断・教科横断型 の学びが日常的に行われるような 「仕組み化」を行う ④ GF 探究や自主活動において、地 域との何らかの関わりを持つ活動を行 う生徒の割合 60%以上 ⑤ 先端技術を活用した探究活動 20%以上、コンソーシアムと協働した探究 活動 20%以上 (3～5 年) コンテスト等への参加 80%以上、うち全 国規模 10%以上 (4・5 年) ⑥ 探究活動を生かした総合型入試等 受験者 75%以上 (6年) GF 探究実施毎に HP 情報発信 ⑦ 各検証ツールの分析結果を全職員 が活用して「個別最適化」された学 びを実施できるような「仕組み化」を行 う	3 3 4 4 3 3 3	4

[7]寮教育部

目標と手段	事業計画	達成目標	評価	
			自己	評議員
	『 礎 ～夢を問う・夢に問う～ 』			
1-① 2-④	① 生徒指導部と連携を図り、教育相談アンケートを通して生徒の困り感にいち早く気づき、声かけや面談を通して、寮生一人ひとりの悩みの解決に向け、早期対応に努める。	① 日々の見守りに加え、学年や五ヶ瀬協力会、各校務分掌と連携し情報共有を行う。	2	3
2-② ③	② 各委員会が常時活動によって機能し、ファミリー等の異学年の交流による社会性・人間性の育成に努め、落ち着いた寮生活が日常的になるよう支援する。	② 各種委員長同士、さらに学年を超えて対話を軸とした関わり合いを尊重する。	2	
3-① ③	③ 自室で独自に主体的な学びができる力を最終目標としつつ、段階的に学び方を学び、隣人の努力に呼応する姿勢を育む。 学習室、学びのスペースの有効活用し、同学年、異学年で教え合う雰囲気を広げる。	③ 前期生の集団学習や自室ドアオープン学習の意義を適宜伝え、共に高め合う取組ができるように見守りと声かけを行う。学びのスペースを活用した主体的、共同的な学びを実現する。	2	
3-④	④ 学習委員を中心に I C T 機器の正しい活用を理解する。	④ I C T 機器の活用するための環境整備を行い教育 DX 推進チームとの連携を取る。	2	
2-① ②	⑤ 寮則を遵守することの意義を常に伝え続け、自他を認め、思いやりのある寮生を育てる。	⑤ 寮生一人ひとりを認める教育の実現と、寮則違反の減少を目指す。	2	
1-③	⑥ 情報発信を活性化し、保護者との連携を図る。	⑥ こだま寮通信やクラスルーム等で保護者への情報提供を活性化させる。	3	
1-①	⑦ 寮の様々な設備や、生徒の自室等の生活環境の整備を行う。	⑦ 五ヶ瀬協力会や事務部との連携をはかり、破損箇所の修繕を速やかに行う。	3	

〔 8 〕 事務部

目標と 手段	事業計画	達成目標	評価	
			自己	評議員
①-① ③-④	① 教育環境施設・設備の充実 ・ 校内巡回や職員・生徒からの聞き取りにより危険箇所を把握する。 ・ 小規模修繕については、即時修繕する。 ・ 中・大規模修繕については、主管課に予算要求し、適宜対応する。 ・ 本校教育のニーズに合った施設・設備に改修・更新する。	① 危険箇所・不良箇所の把握及び改修を行う。 機能的・効率的な施設・設備に改修・更新する。	4	4
①-①	② 給与・諸手当の適正な認定・支給 ・ 職員と連携を密にし、旅費の早期支給に努める。	② 過年度追給・戻入をゼロにする。	3	
①-①	③ 旅費の適正な管理・執行 ・ 職員と連携を密にし、旅費の早期支給に努める。	③ 復命書提出後、2ヶ月以内に旅費を支給する。 県外出張は概算払とする。	3	
①-①	④ 予算の適正な管理・執行 ・ 予算の執行計画を立てるとともに、学校財政状況を職員に周知する。	④ 修繕や購入要望については、予算執行状況を説明する。	3	
①-①	⑤ 授業料・学校納入金等の滞納撲滅 ・ 授業料・学校納入金の期限内納入について保護者に働きかける。 ・ 就学支援金の早期認定、奨学給付金の早期給付に努める。	⑤ 3ヶ月以上の長期滞納者を出さず、年度内に必ず完納させる。	4	
①-①	⑥ より良い接遇の実現 ・ 電話・来客の対応にあたっては迅速を心がけ、相手に不快感を抱かせないように心がける。 ・ 行事等で来客がある場合は、スムーズに対応できるよう事前に窓口連絡をもらうよう、職員に働きかける。	⑥ 来客の時間・目的等を事前に把握し、情報を共有する。	4	

[9] I 期

	事業計画	達成目標	評価	
			自己	評議員
2 - ① ②③	① 定期テストに取り組む意識の向上を図る。各教科や教務部と連携し、下位層の削減を図る。	① 定期テスト平均点 7 割達成をめざす。	2	3
2 - ①	② 日々の課題や長期休業中の課題にしっかり取り組ませる。	② 教科担任協力のもと、全員提出をめざす。	3	
4 - ③	③ 異学年での学びの場としての I 期生集会を実施する。	③ 2 年の学級役員に企画・運営を計画させる等、リーダーシップを発揮する場を設ける。	3	
4 - ③ ④	④ 委員会活動、係活動の活性化を図り、マナー、モラル、ルールの意味や大切さに自分たちで気づかせ、自分たちでよりよい学校、寮生活を作り上げることが意識させる。	④ 日常のマナー、モラルに欠けた言動を見逃さず、個人の指導に終わらず、全体で考えさせる場を常につくる。（リーダー育成）	2	
1 - ①	⑤ 学年で生徒の心身の変化に早期に対応できる体制づくりを図る。	⑤ 学年団による朝や帰りの会での生徒の観察や体調不良者に対して寮に出向いての対応を行う。職員同士の情報交換を密にする。	3	
4 - ① ④	⑥ 生徒の悩みや不安等に早期に対応できるよう、学年による 2 者面談を実施する。	⑥ アンケートを利用した 2 者面談を実施する。	3	
1 - ②	⑦ I 期生の様子を保護者に伝える。	⑦ 学級通信・I 期生通信・学年寮通信を積極的に発行する。	3	

【10】Ⅱ期

目標と手段	事業計画	達成目標	評価	
			自己	評議員
2—①	① 基礎学力の定着とⅢ期に繋がる実践力を養い、学力の向上を図る。	① 定期テスト・まなびの基礎診断・学力推移・スタサプを活用し各教科・科目と連携を図る。	2	3.25
2—③④	② 日々課題や長期休業中の課題について考えさせ主体的・協働的に取り組ませる。必要に応じてICTの活用を図る。	② 主体的に学び合う集団の育成。対話の習慣化。	3	
2—③	③ スタディサプリを活用し、朝の時間帯を主体的な活動にする。	③ 自己の振り返りや対話を通して、生徒が自ら活用できるようになる。	3	
4—④	④ 規範意識とは何か考えさせⅠ期生の模範となるしかけを行う。	④ 背中で語れる“先輩”の育成と背中で語る教師。	2	
3—①	⑤ 大学入学共通テストへ向けての情報発信を行う。	⑤ 学活やLHRを活用し定期的な進路指導を行う。	3	
4—②	⑥ 生徒の悩みや不安等に早期に対応できるよう、学年団による二者面談を実施する。	⑥ アンケートを利用し、年3回以上の二者面談を実施する。	4	
1—②③	⑦ 生徒の様子を保護者に伝える。	⑦ 学級通信、学年通信、クラスルームの更新を積極的に行う。	4	

[11]Ⅲ期

目標と手段	事業計画	達成目標	評価	
			自己	評議員
4-④	① 適切な時期に適切な環境を与える	① 学びの完成の時期として、5年・6年それぞれの適切な時期に、適切な仕掛けを行い、進路意識の向上、学力向上に努める。	3	3.25
3-④	② ICT活用法の検証と改善	② ICTの活用についてはいろいろな手法を試したこともあり、学力向上の視点から検証し、よりよい活用法を模索する。	3	
3-④	③ 個別最適な学習環境の提供	③ 一人一台端末と印刷環境、スタサプ等の活用により塾が無くても、自分で学べる生徒を育成する。	3	
4-①	④ データに基づく確かな進路指導	④ スタサプ・AiGROW・ICE-Qs・ハイスchoolオンライン等を活用し、データに基づく確かな進路指導・生活相談等を実施する。	3	
1-② 2-③	⑤ Ⅲ期としての結びつきを強める。	⑤ 職員室配置を有効に活用してⅢ期職員同士の情報交換の機会を増やす。各期集会等も利用し、5年生の進路意識が高まるような仕組みを構築する。	2	
3-①	⑥ 一般入試で合格しうる学力を付けた生徒の育成	⑥ 課外は無くなるが、朝活や放課後の時間、授業内演習を充実させることで、生徒の学力を高める。	2	

学校評議員よりいただいたコメント

（１）各校務分掌の反省をふまえての意見

[生徒指導部の生徒指導、男女交際の反省について]

- ・全寮制ということで、創設以来、性教育や生徒指導の件は常に悩みだった気がする。外部講師活用は保護者も安心できるのではないかな。
- ・小学校からの取り組みでやっておかないといけないこと。日本はそれが確立していない。特にニュージーランドの例では、日本が考えている性教育よりも、もっと命のことやジェンダーのことまで性教育のプロ集団と学校が契約して、幼少期から一貫した指導が行なわれている。五ヶ瀬中等も同じようなモデルを研究してはどうか。学校の先生だけでどうにかできるものではない。

（２）学校の取り組みについて

- ・10/19 に開催された創立 30 周年記念式典に参加した。代表生徒の誓いの言葉に感動した。開校以来、激しく変化してきた時代を受け止めながら、努力を惜しむことなく勉学や部活動、探究活動に励んできた姿勢を、伝統と声を大にして叫ぶ生徒の深奥に触れた思いで、心が震えた。
- ・9/17 文理融合・教科横断型授業を参観した。社会のなかの概ねの出来事は、学校で習う一教科の思考のみで解決できるものはほぼなくて、ほとんどは様々な視点と考え方の複合的な思考で解決の道を探るものだと感じかされた。次年度以降も取り組んでいただけたらと思う。
- ・5 年女子生徒の探究活動「移動販売について」。私の職場に限られた時間を利用して何度も来てくれたり、休日に移動販売に同行して熱心に学習していた。わからないことは、ただ一つの質問でも電話やメールではなく直接会って尋ねてくれた。移動販売の同行では、買い物をされる高齢者の様子を肌感覚で理解してもらったように感じた。常に礼儀正しく、素晴らしい生徒だと感じた。
- ・授業参観では、各教室とも I C T 活用による授業で、特に高学年の英語の授業など凄いと思いました。国の補助事業も多数受けられ、他校になり経験を積んでいると思うし、また、それを身につけて社会で活かせる人材が生まれるのを期待しています。
- ・卒業式の送辞・答辞も素晴らしく、中学校から親元を離れ勉強、部活動、友人関係など人格形成に重要な時期に 6 年も一緒に生活してきた仲間、友との絆、個々の成長を感じました。社会貢献できる人材が多数巣立っていくのでしょうか。頑張ってください。
- ・研究調査発表について、前期課程の部を聞きました。2 学年の女子生徒は発表の組み立てがしっかりしていて、わかりやすく、聞き手にすーっと入ってくる説明でした。声の大きさも速度もよかったですと思います。いろいろな研究があって、この積み重ねが将来大きなものにつながっていくのだらうと思います。開校当初からの継続、発展が素晴らしいです。
- ・(校舎が) 木造で、メンテナンスが必要な時期になっていると思いますが、事務部の皆さん頑張られていますね。

（３）学校運営協議会について

- ・五ヶ瀬町内の小中学校はすべて学校運営協議会になっている。上組小学校では運動会を、学校と学校運営協議会が協力して地域の運動会として実施している。坂本小学校では、学校運営協議会が主体になって保護者と協力して草刈りを行なったり、そうめん流しを行なったりした。五ヶ瀬中学校の場合は、町内全域から生徒が来ているので、学校運営協議会委員は充て職的な感じで P T A 会長、商工会、観光協会、J A などが担っている。異動があれば委員が替わる。
- ・五ヶ瀬中等教育学校の場合は、保護者が県内各地にいるということで難しいなあと思う。

（４）その他

- ・何よりもまず、校長先生をはじめ教頭先生が真摯に取り組まれている様を目の当たりにし、唯々頭が下がる思いでいっぱいでした。学びの森学校が尚一層素晴らしい学校になりますようお祈りいたします。